

5－9					
主題	アジア地域における介護福祉士を目指す。				
副題	自国の誇りと日本人の心をもつ介護福祉士の役割と意義について。				
キーワード 1	やさしさの理解	キーワード 2	自立支援	研究(実践)期間	16か月

法人名・事業所名	学校法人 サンシャイン学園 東京福祉保育専門学校 介護福祉士学科
発表者(職種)	ズーエン、タイン・タイン、エン、ジャン、チョー・チョー
共同研究(実践)者	

電 話	03-3981-1686	FAX	03-3987-0360
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	当校は介護福祉士養成校として都内で最初に厚労省より認可された介護福祉士養成校です。当校の特色は双方型の授業方法で解りやすく理解することを学びます。また、実習施設との連携により、実践力のある学生の養成を目指している。 平成27年度より、介護福祉士学科 留学生コースを開設する。
-------	---

《1. 研究前(実践)の状況と課題》

私たちは、日本語学校を卒業して、2016年に東京福祉保育専門学校 介護福祉士留学生コースに入学する。入学当初は、介護福祉士のカリキュラムや介護実習ができるか不安と戸惑いで一杯であった。

授業がはじまり、施設見学や施設でのボランティアを体験することで、介護福祉士の役割が少しずつ理解することができ、実習に臨むことができた。

実習施設では職員の皆さんの励ましや丁寧な指導の下に楽しく実習を終えることができた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

2年間で介護に対する理解と実習施設で学んだ実践方法を理解する。ベトナム、ミャンマーでは高齢者が少なく介護という認識が少ない。日本の生活習慣を理解し、利用者様が安心して、支援ができるような介護福祉士を目標とし、近い将来、母国でも高齢社会になった時に日本の介護の素晴らしさをアジアの国で活かされる介護福祉士を目指したい。

《3. 具体的な取り組みの内容》

入学当初は、介護福祉士の理解が出来ていない学生が多くいた。介護福祉士の勉強することに戸惑いと不安でいっぱいであった。学習が進む中で日本語の難しさと介護の専門用語の使い方等毎日が不安の連続であった。授業で解りやすく教えていただけたおかげで徐々にではあるが理解することができるようになる。初めての实習では緊張と不安であったが、施設の利用者様から温かく受け入れていただき、楽しく実習を終了することができた。

実習終了後には施設の理解と高齢者を知ることができ介護福祉士の役割が見えてくる。

更に実習が進む中で私たちも介護福祉士の国家資格を取得して、日本の介護施設で働きたい気持ちが大きくなる。

《4. 取り組みの結果》

2年間の授業と介護実習を通して日本式の介護の理解ができる。やさしい介護とは、ただ単に身体介護をするのではなく高齢者の立場になり、一人ひとりにあったケアを実践することの大切さを理解することができる。介護職員が利用者との関わりではいつでも笑顔で接し、利用者が安心して生活ができる環境をつくることが重要であると感じる。

日本の介護で一番興味がある自立支援について学ぶことができ今後は介護職員となり実践ができるよう努める。

2年間では、日本語の難しさを知り、日本語もっとできれば利用者様の関わりの中で、意思疎通ができたと反省する。

秋からは施設でアルバイトをして、4月から就職に向けて意欲の向上を図りたいと考える。

《5. 考察、まとめ》

日本語学校を卒業して、養成校に入学したが、日本語が話せない、理解することができないことが殆どであった。もっと日本語が話せたら高齢者の皆さんと楽しく過ごすことができたと思える。これからは、日本人の気持ちを持ち、利用者様本位のケアができる様に努めたいと考える。さらに、就職後には日本語の勉強に励み、高齢者との良好なコミュニケーションを楽しみ、日本式の介護の理解し、自国でも活かせる力を養いたい。

今までは、学校とアルバイトだけで、日本の楽しむことができなかったが、秋からは介護施設でアルバイトを行うことで日本のお祭りや花火大会や日本の歴史をすることで利用者様との意思疎通が図れることにも役にたつことも学びたいと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

なし。

《8. 提案と発信》

EPA等も含め。私たちは、ベトナム、ミャンマー人として介護福祉士になり、社会福祉法人聖風会で平成30年4月1日より、就職が決まる。就労するにあたり、自国の誇りの下に、日本人の心をもった介護福祉士を目指す。今後は外国人介護福祉士の養成にも関わり、後進の指導ができる様に更に勉強をして日本人の介護福祉士に近づけられるように精進する。

今後はアジアでも、急速に高齢化が進む中で、多くの外国人留学生が来日した際に目標となるように頑張りたいと考える。